

学校設定科目「中国語探究」の在り方

社会人講師 胡 亜敏

1 はじめに

中国語探究講座は、2年生と3年生それぞれ週に2回実施しており、『標準高校中国語』を教材としている。もちろん、高2から高3までの2年間のうち、週2回の授業だけで一つの外国語を身につけることは当然ありえないので、単なる語学の勉強より、文化交流の推進のために授業に取り組んでいる。主な目的は、中国語を学びながら、テレビや本で見られない中国を知ることである。

また、毎年の秋、高2受講生の中から2～3名の生徒が中国語スピーチコンテストに参加し、ほかの参加者との競争をとおして、中国語に対する興味をより一層掘り出せる。

2 授業の実施状況

授業では基本的に教科書に沿い、単語・文法ポイント・本文・練習問題の順で学んでいく。また、課ごとに新しい単語を勉強した後、ディクテーションを行い、本文の解説が終わったら暗唱発表をやってもらう。

中間考査や期末考査後、春休みや夏休みに入る前に、授業を進まず、中国の映画を見せたり、歌を学んだり、中国語でゲームをしたりしていた。

3 授業を行った感想

新しい単語を勉強する時、生徒たちが声を出して一緒に読みますが、文法を勉強する時にはだんだん元気がなくなって、寝たりぼんやりしたりしてしまいました。しかし、思いがけないことに、大変そうな暗唱発表は、みんなが楽しくやっていました。やはり、静かに講義を聞くより、自分たちで授業に踏み込んで考えながら話すのが喜ばれるかなと思いました。それに、教科書にある本文の暗唱以外、生徒たちにグループを自由に組ませて、好きなシチュエーションを設けて、学んだ知識を用いて会話を作って発表するというような自由会話練習もしていました。

会話文を作る際に、みなさんが盛り上がって議論していました。買い物、動物園の見学、美味しい料理を食べるなど日常生活に関わるシチュエーションを設定し、教科書に載せていない単語も自ら調べてしっかりと課題を完成しました。

- (1) A: 今天去哪里? (今日はどこいく?)
B: 我们去动物园吧。(動物園行きましょう)
C: 好呀好呀。(いいねいいね)
A: 我想看熊猫。(パンダ見たい)
C: 我也是。(私も)
ABC: 走吧走吧!(行こう行こう!)

(2)

A: 我们吃章鱼小丸子吧。(たこ焼き食べましょう)
B: 我没带钱包。(私財布持っていない)
A: 我请你。(奢ってあげるよ)

上記2つの断片は、2年生の授業でみんなが投票してランキング1位と2位の会話文です。「動物園」、「たこ焼き」、「財布」、「奢る」のような単語や、勧誘表現の「行きましょう」、「食べましょう」などの文法は学んだことがありません。しかし、驚くことに、最初のシチュエーションを考える段階、つまり何についての話をするのかが日本語でメモを書くとき、知らない文法と単語を避けるのではなくて、逆に頑張って中国語訳を考えていました。こういうふうに自分たちが好きな話題を中国語で考えたり話したりするのがとても重要なことです。語学の勉強に対する熱情は、外から押し込むとだんだん消えてしまうので、自ら外国語を使う楽しさを意識した方が習得しやすいと思いました。

2年間の授業でとても楽しかったですが、経験と力不足のため、会話の授業以外に、頭の中にある授業雰囲気を作れなかったのはとても残念でした。しかし、自分が一方的に中国語や中国文化を教えているのではなく、生徒たちからもたくさん日本に関する話を聞けて、日本の高校生の考えを知ることができました。これこそ互いに文化を交流しているのではないかと思います。私にとって、高校生にとっても非常に貴重な経験でした。